

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	うんちは生きている : うんち作文に見る子どものイマジネーション
Author(s)	小林, 照子
Citation	児童の言語生態研究 , 16 : 23 - 39
Issue Date	2004-02-10
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045189
Right	
Relation	



特集

子どもの神性と野性

うんちは生きています

——うんち作文に見る子どものイマジネーション——

小林 照子

はじめに

「うんち作文」との出会いは今から16年前に遡る1986年のことである。「子どものイマジネーションの情動における4つの仮説と1つの付説」を掲げ、子どものイマジネーションの原動力を探っている最中だった。(注1) 生理感覚に焦点を絞れば、子どもが答えてくれるだろうという確信はあった。そこで、「うんち」という題の課題作文を考慮した。うんちとは糞である。言語活動に「くそ」という感動詞があることから、「うんち作文」の中に子どもが力強い生命力が見出せるのではないかという期待がふくらんだ。

まずは八王子市立第六小学校2年1

組35名の子どもたちに「うんち」という題名で作文を書いてもらうことにした。子どもたちは予想以上に興奮し、夢中になって書いた。考えたり思い出したりにして書くのとは違う作用が働いているように見えた。子どものイマジネーションの研究を始めてから「行った」「あな作文」(注2)や「夢作文」(注3)の時と同じ状態だった。書いたというよりは、イマジネーションの運動に引張られて、どんどん書いてしまったという感じなのである。子どもたちが一気に書き上げた「うんち作文」はどれもパワフルなものだった。そして、お互いの作文を読み合い、叫び合ったり、笑い

転げたり、たっぷり楽しんで、その後も前にも増して仲良くなった。

それから16年の間に「困る作文」(注4)「夕日作文」(注5)「人形作文」(注6)の分析に取り組み「うんち作文」は後回しになってしまった。資料としての手応えあり、という安心感、資料の数に学年の偏りがあるといった準備不足が、取り組みを先延ばしにしていた理

由である。今となつては作文資料に学年のばらつきがあるだけでなく、作文を採集した年度のばらつきも生じてしまった。しかし、今回のテーマである、子どもの野性と神性を研究するにあたり、「うんち作文」のパワーを見逃すわけにはいかない。資料にばらつきがあることを承知の上で、できる限り分析を試みることにした。

I 生命の実感(イマジネーションの生理と発動)

1 生々しい生理感

ベトベト、ベトトリ、ベチャベチャ、ベチャツ、ベチヨ、グチヨグチヨ、グ

ニヤグニヤ、グニヨツ、ニユルニユル、フニヤフニヤ、ポトポト、ポトリ、ポトソ、ポトソ、ベチャベチャ、ポチヤン、ポトソ、ブリブリ、ドロドロ

これらは「うんち作文」に見られたオノマトペである。子どもたちは「うんちはくさい」「うんちはきたない」「うんちはきらい」と言い切る前にしっかりとんちを感じている。

例1

トイレに、はいつてシャーシャーうるさいおと、みんな、おならブーブくさいし、うるさい、人に、しつれい、うんちを、ポトポトうるさい、おなががいたいと、グチヨグチヨのげり、そのあとに、おしっこ、シャーシャーが、かならずでるよ。ペチャペチャ、なんのおと。うんちがでたら、すつきりうんち、くさいけど、がまんがまん。あかちゃんのうんち、あねのうんち、おかあさんのうんち、おとうさんのうんち、おじいちゃんのうんち、おばあちゃんのうんち、おおばばちゃまのうんち、おおじじちゃまのうんち、いろいろのうんち、いやいや、みられたくない、みんな、うんちも、おしっこも、げりも、かたいうんちも、おならも出るよ。くさいけどみんながまん。おならもがまん。みんなくさいんだもん。たくさんしちやつても、みんなはなをつまむな。だつてじぶんだつて おならするんだもん。みんなするんだ。くさくても

がまんするんだ。レッツゴー！みんながまんがまん。みんなするからへいきだ。みんながまんがまん。そこにいたら、そこですれ。みんながんばれ、がんばれだぞ。じゃあねーだ。みんなするんだよ。

1998 玉川 2年女子

支離滅裂。ただただ思いついたままを文字化していたら、うんちを応援することになってしまった。「くさい(臭覚)」「うるさい(聴覚)」「スッキリ(内臓感覚)」の他に「人に失礼」といった他者との関わりへの意識も見られる。あかちゃんの うんちから おおばばちゃまのうんちまで登場させて、「みんながんばれ がんばれだぞ。じゃあねーだ。みんなするんだよ。」と命令のような励ましの言葉を発している。

例2

前、ひろいところで、うんちがありました。ぼくは、おねえちゃんとしやべりながらあるいていました。うんちのことはしらなかって、うんちのちかくにいつて、

「グシャー！」

となにかへんなおとがしたと思ったら、なんと、ぼくはうんちをふんでしまいました！ぼくは、

「あー！」

と言いました。しかも、はいていたくつは新しいくつだったのです！ぼくは、げー！と思いました。前はサイテーパーの日でした。そのつぎの日、おかあさんと、じてんしゃをのっていたら、また、うんこがありました。そしてじてんしゃでまたぼくがふんでしまいました。そのときもサイテーパーでした。

2000 山田小 2年男子

昔のように馬車は通らないし、散歩犬のうんちは飼い主が拾うし、都会でうんちを踏もうと思つたら苦労すると思うのだが、「うんちを踏んだ」ことを生々しく書いた作文は多かつた。そして、素足で踏んでいるわけではないのに、「ぐしゃ」「べちゃべちゃ」「べちゃ」という、皮膚感覚がオノマトペで書かれていた。

例3

トイレでうんちをするときに、おなががいたくなつて、トイレにいつてうんちをだすと、とてもきもちいいです。でも、うんちでも大きいとちよつといたいけど、やつたあとになるととてもきもちいいです。

ぼくは一回だけどへびみたいにな、ほそながくてながいうんちをだした

ことがあります。それをだすときは、とてもくるしくて、なきそうでした。でもおわつたらとてもきもちよかったです。

ぼくはときどきうんちが大きすぎて、ちがでるときがあります。でもふけばなおつてしまいます。それでうんちもあかくなる場合があります。それであかいうんちをだしたことが、一回だけありました。ぼくはおもしろいと思います。

ぼくは、げりをしたことがあります。げりはふつうのうんちと、ちがい、でたけどおわつたけどまだきもちわるくて、いまにもでちゃいそうでした。

それでとてもむによむによしてとてもきもちわるいです。

1998 玉川 2年男子

ほとくのうんちの記録とでも名付けたくなるようなまじめな観察文である。毎回のうんちを「よく見て(視覚)」「よく覚えて(記憶)」いることに感心してしまう。いいうんちが出たときの快感とげりのときの不快感についても説得力がある。

例4

トイレに行つたら水の上に毛虫が

うかんでいた。トイレにうんちがあつてくさかった。でもトイレにきたからトイレしてうんちしてすっきりした。うんちしてよかつたな。でも、もしうんちをするまえに、だれかがもどしちやつたトイレに入つたらどうしよう。トイレの中にだれかまきこまれたらどうしよう。そのままながされてしまうのかな。もしそうだったらたすけるかもしれないけど、うんちのにおいでからだじゅうがくさくなつちゃうの。だからどうやつたすければいいのか。？うんちの音はポトポトポチャーン。そういう音かな。ときどきおならをプーッと出す時はうんちがたまつたのかな。べん強の前いつもトイレに行く。その時うんちする。みんなの前だと音をきかれるからはずかしい。でもしなきやもれるよりは、まし。でもうんちは、げりやべんびもある。おなかがいなくなつた時はげり。ぎゅうにゅうをのんでいない人は、べんび。いろいろなうんちが出る。とくに元気なうんち。うんちはながほそい。うんちはどうしてでるのかな。

どうしてこのよにうまれたのかな。

1998 玉川 2年女子

トイレの水に浮かぶ毛虫を見たところから不安感が広がり出している。イ

マジネーションが動き出していいってもよい。「べん強の前いつもトイレに行く」というのだから、学校のトイレのことだ。「うんちしてすっきりした」と快感を感じているにもかかわらず「どうしよう」「どうしよう」と不安はつるばかり。「うんちの音はポトポトポチャーン」と、うんちの音を想起することによって、なんとか気分転換するのだが、考えれば考えるほど「どうしてこのよにうまれたのかな」と謎は解けないまま終わっている。

不安といえ、うんちをどこでするかという問題にも深く関わっている。小学生の中には、学校でうんちをしたがらない子がいる。その数もすくなくない。安心してうんちができるのはなんといつても自分のうちのトイレなのである。

例5

みきちちゃんは、おかあさんと、こうえんへ、あそびに、いきました。さいしょに、すべりだいで、あそびました。おひるに、なりました。おかあさんが、ジュースと、おにぎりをもつて、いたので、たべました。たべ終わった、ころ、こんどはじゃんぐるじむで、あそびました。そのとき、みきちちゃんが、うんちと、いきました。そ

れで、おうちに、かえつて、うんちを、しました。それで、みきちちゃんは、すっきり、しました。

1998 聖徳 1年女子

おかあさんと一緒なら、うんちがしなくなつても安心。食べて遊んで、お家に帰つてうんちしてすっきり。この作文からは、ごく自然な幼児の生活が感じられる。

例6

一人の女の子がいました。そのなまえはのり子ちゃんでした。みんなに「うんち、バカダレー。」といわれていました。つぎの日曜日、一人でこうえんにいって、一人であそんでいました。そうすると、なんだかうんちがいきたくなりました。

「あれ、うんちがでちゃう。ちよつとあそびたいから、がまんしよう。」
2・3ぶんましました。

「あーん、がまんできない。」といながら、のりこちゃんはおうちにとんでかえりました。そしてトイレのドアをあけて、

「ふうー」として、うんちをしました。ポチャーン。「あ、すつとした。」といったとき。

1998 玉川 1年女子

「うんちがでちゃう。」「あーん、がまんでできない。」と、いくらがまんしても生理的欲求はおさえられないという実感が伝わってくる。そして、うんちをした後のスッキリ感は、天にもものほろ思いのだろう。子どもたちは、うんちやおしっこで日々そのことを実感しているのだ。この作文は「一人の女の子がいました。」で始まり、「すつとしたとき。」で終わっている。主人公の名前も実名ではない。だれにでもよくありそうな話なのに、わざわざ物語形式で書いているところに、生々しい生理感をも自分の体から離して、客観視してみようという意識が感じられる。

例7

トイレでみんなうんちをするときこんな音をします。たとえば「ぶり」とか「ポトン」とかいろんな音があります。そしてうちではお父さんが一番します。私もおなかがいたくなつたりするとすぐにトイレにかけこみます。ときどき妹がうんちをするとき、ドアをあけて本をもつてすると、みんなわらつて妹が、うんちをしているとなみだがでるから、さいしょにわらつたよりもつとわらいます。お母さんも、トイレで一回入つたらもうでません。1時間、2時間、3時

間といっぱい入っています。みんなうんちをするとすっきりするのでいちんち10回ぐらいします。うんちやおしっこをがまんすると、うんちやおしっこがたまつてその場ででちゃうこともあります。妹とホテルにとまったとき、かくれんぼをしました。そしたらソファのすみでおしっこをしてしまいました。私もそういうことがたくさんありました。たとえばキッチンでおさらやコップをあらつてたらでてしまつたりお母さんもあつたといいました。子どものころ花火をしていたらそのすきにてしまったといいました。私はプールでうんちがまんできなくてトイレにいったけどみちがわからなくてでてしまいました。私もまだでちゃうかな。

1998 玉川 2年女子

子どもがうんちをする姿を笑つて見守る家族。お互いのおもしろい経験を語り合う母と子。この作文からは、家族の暖かい雰囲気伝わってくる。またつい調子に乗つて、「3時間もトイレに入っている。」「1日に10回もうんちをする。」などとおおげさな話になっている点も見逃せない。このように「調子に乗ってしまう」「エスカレートしてしまう」というのが、うんち作文の特徴なのである。うんち作文には、家族が登場

するものも多かった。「おうち作文」(注7)の研究をしたときにうんちを書いた作文が見られたことを考え合わせる、おうちもうんちも子どものたちの意識のベースになっているということなのだろう。

例8

トイレに行つてうんちをした。うんちが出てくるにはちよつと時間がかかる。でてきたうんちは「ちよつときもちわるい」と思う。ちよつときさいにおいがするときもあるし、すつごくくさいときもある。私はうんちが出るまで本をよんでいる。本がおもしろいのでなかなかトイレからでないときもある。「んんん〜！」と言つて力いっぱいうんちを出すので力が少しとれるときもある。うんちが出るとすつきりして、「ふう……………すつきりした。」と思う。「ジャー」ながしたあと「うんちくん：バイバイ」と言う。そのあとしゃがむとちよつときもちわるい。

1998 玉川 2年女子

この作文を読むと、力いっぱいうんちをすることが体内からうんちを産み出す実感になっていることがわかる。

おなかに力を入れて「んんん〜！」とふんばる感覚が出産の時のいきむ感覚と同じだと言ふ女性が多い。出産には程遠い子どもでも産み出す実感があるからこそ、今、自分の体内から生まれたいうんちに向かって「うんちくんバイバイ」と呼びかけたくなるのではないだろうか。

2 うんちくん誕生

「うんち作文には「うんちくん」という名の生命体が数多く登場した。

例9

うんちくんのたんじょうは人間のoshiりからうまれます。〔後略〕

1998 聖徳 2年男子

例10

ヤマザキ君は今日トイレで、うんちをしました。そうしたらプースケが、たんじょうしました。〔後略〕

1998 聖徳 2年男子

例11

ある日の朝大男がうんちをしまし

た。そして、うんちくんがたんじょうしました。〔後略〕

1998 聖徳 2年男子

以上のように人間の体から排泄されたうんちが生命体になるという例が多いが、ふしぎな力によって生命体になるものもある。

例12

「うわわーもれるー。」ドタバタと音が聞こえてきました。草村の中で「ぶりぶり。」音が聞こえてきました。がさがさと音がして男の人が出てきました。

男の人はうんちをしていたのです。数分後うんち君が草村の中から出てきました。

うんち君は「ぼくうんち君です。よろしくね。」

と言いました。〔後略〕

1998 聖徳 2年女子

数分の間に何が起こつたのだろう。生命体となつたうんちは自ら「うんちくん」を名のっている。

例13

ある日トイレにながされたうんち

はあなからずーとすぎていくと光り
がみえてえのなかにすいこまれました。
とたんにウンチにたましいがは
いった。たましいがやどった。ウンチ
はあるいていた。〔後略〕

1998 町四小 3年男子

例14

ぼくはピーピーのウンチをしまし
た。そのときおじいちゃん「せいめ
い入れ」をウンチにかけちゃいまし
た。こうしてできた。名前「うんち」
くんです。〔後略〕

1998 玉川 2年男子

光の中にすいこまれたり、おじい
ちゃんの「せいめい入れ」をかけられた
り。うんちくんはなんらかのエネル
ギーを得て生命体になることができた。

3 旅をするうんちくん

生まれ方は様々であっても、命をさ
ずかったうんちくんたちは 実に行動
力豊かである。「ようし」と意気込んで
旅を始めるうんちくんも多かった。

例15

昔にある村がありました。牛こや

で牛がうんちをし、その日の昼、牛か
いがやってきてそのうんちを見て
「あっこれはもうつかえないな。」と
いって村の外に「ぼいつ」となげまし
た。そのよる空にまん月がたちうん
ちに光をあてました。するとうんち
の中から手と足、さいごに顔がぬ
くつとでてきました。

「ぼくはすてられたんだ」とうんち
くんはそういって「ようしぼくはた
びによう」といってぼうけんがは
じまりました。おかにのぼり山をく
だつたりして村につきました。

村にはいると牛のうんちからうま
れたときとおなじです。うまごや
もあります。馬こやにいくとなんと
うんちくんの友だちです。一人はま
るくん二人目はくんちゃんです。「二
人はたびしているんだね。ぼくもい
きたいといつてうんちくんは「いい
よ」といいました。こんどは三人して
海をわたりジャングルもすぎてがけ
をのぼり、どうくつを見つけました。
でも、そこはせまくて「休めないわ
とくんちゃんがいいました。「あなを
ほろう。」うんちくんがいいました。
二人、声をそろえて「さんせい」とい
いました。あなをほつたらおたから
ざいほうを見つけました。

2000 玉川 2年男子

旅を続けていたら「めでたしめでた
し」になつたうんちくんである。まも
のと戦ううんちくんもいる。

例16

あるむらにうんちのむらがありま
した。いえに「たびにでる。」といっ
ていきました。ところがそのむらを
でるとまものがいっぱいいいて、その
うんちによるいとかけんとかぶきを
あげました。でたしゅんかんできが
でた。つよい、つよすぎる。たてをつ
かいました。「バラゴンをなかまにし
てやる。」といつてなかまにすること
ができました。〔中略〕うんち
くんのなかまはもう3人。ドラゴン
にけんたてをそうびしないとでき
にやられちゃう。〔中略〕

3人はとおくのさばくにつきまし
た。のどがかわいた。「いいな。スラ
イムは、ドラゴンのせなかにのせて
いこう。」「いいぜ。むらにむかつてい
くぜ。」「よし。レッツゴー。」「ビュウ。
「はい。はい。」「やつほう。すげ
え。あれは、な、なんだ。」「くものな
かにはいった。」「よこにモンスターが
いるぜ。」「いくぜ。モンスターたたか
うぞ。」「いくぜ。かえんをはけ、ドラ
ゴン。」「ほうおおおおう。」「わあ。たす
けて。なかまにしてくれよな。」「まだ

ドラゴンのせなかにのつてむらにい
くんだよ。」「いこう。かさんのなかに
はいるぞ。」「それ、モンスターじゃ
ん。」「わかった。ベホスいくぞ。」「
やった。かった。」「もうたたかいは
おわりだ。いくぞ。おれのいえへ。み
んな、いえにかえつたらじつくりや
すもう。」「いえについたよ。」「ねる。」

1998 町四小 3年

旅の途中で戦いに勝つと、なかまが
増えてパワーアップするうんちくん
である。戦いが始まってからは、思いが次
から次へと進んで行くので、その思い
を文章化する作業が追いつけず、ま
んのふきだしを文字化したような感じ
になっている。映像を文字化したよう
なものまであがつてしまった。うん
ちの誘引力によってイメージネーシ
ョンが活発に動いていることがわかる。
ファミコンのロールプレイゲームにも
負けていない。

世界をめぐるうんちくんもいた。

例17

うんちがぶりつとでた。そのうん
ちがながされて下水道に出た。そし
てだんだんおよいだ。それからいろ
いろなほうこくがあった。

あるときはすみだ川におよいでい

るうんちくんをみたとか、またあるときは日光のたきでおよいでいるうんちくんをみたとかそんなところでうんちくんはたびをつづけてある日あるいているうんちくんをみた人がたくさんいた。

そしてついにインド洋にまできてしまった。そのときたつまきががおこった。そしてうんちくんをアメリカまでとばしてきてしまった。そしてうんちくんはききようにかえろうとおもっておよいで日本までいった。そしてとうとう東京にきた。そしてとけてしまった。

そのときまたうんちがでた。

1998 聖徳 2年男子

故郷に帰ったうんちくんがとけてしまつて命は終わったかと思いきや「そのときまたうんちがでた。」と命が再生したところで終わっている。冒険が大好きなうんちくんの旅は長いので16×16の原稿用紙15まいにもおよぶ。

例18

ある日、子どもがうんちをしまった。うんち君は大声ではなしました。うんち君は、なんと言ったかね。それで、ある日うんちくんは旅に出ました。うんち君は、家からとびだしまし

た。うんち君は、旅、ぼうけんが大好きです。とても、うれしそうに、家を出ていきました。

～中略～

うんち君は、自分がいやになって、自分をさらになつてきました。そしてうんち君は、大きなうみにとうちやくしました。

～中略～

そしてみんなしらんぷりして、いつてしまいました。うんち君はなきそうになりましたが、男の子だったので、まだぼうけんをつづけていました。

～中略～

うんち君は、とてもおかしくてわらつてしまいましたがおかしいことに、人がみんないません。うんちくんは、なきました。しかし、うんち君は、またぼうけんをはじめました。ところが、ほらあなに入つたとたんに、気が弱くなりました。

～後につづく～

こんな調子で書き続けていたら15枚になつてしまつたというかんじである。泣きそうになつたりおかしくて笑つたり、気が弱くなつたり豊かな感情を持つたうんちくん。タフなうんちくんは人間におまれても、サメに食べられても旅を続けている。旅を始めた季節は書かれていないが、旅を続けていると冬になり、春になりやがて夏が来た。

それから、うんち君は、せんろの中に、だんだんすいこまれてきててしまいました。そして、見てみると、人間になつていました。ところが、もううんち君にもどつてしまいました。

1998 聖徳 2年女子

人間になつて終わるのかと思うと、またもとのうんち君にもどつたところで終わっている。作文は終わったが、うんちくんの旅は終わっていないということなのであろう。

うんちくんに誘引されて続けてきた旅が終わるのはどんな時なのだろうか。

例19

～前略～

うんち君のからだはどんどんとけてしまつてかたちもきえてしまいました。

1998 聖徳 2年男子

例20

～前略～

うんちちゃんはねこのうんちで3cm7mmです。でもそのあとすぐとけちゃいました。でも、どろみたになつてながれていくとおしっこ太ろうがきていっしょにあそんでいると、

みんな氷になつてしまいました。ま

2000 玉川 2年男子

とけて消えてしまつたり、氷になつてしまつたうんちくんもある。しかし、なんといつても生き続けるうんちくんが多かつた。

例21

～前略～

そして、うみにでました。そしてうみをすいすいおよいでいるとまたとけてきて、うんちくんは「ああ、もうだめだ。ぜんぶとけてきてしまつてしまふ。」と言いました。そのとき、くじらがうんちのよこをとおりかかりました。うんちはチャンスと言つて、くじらにいいました。「くじらさん、くじらさん、ぼくをたべてくれませんか。ぼくとけてきて、これじゃあ、ぼく全ぶとけてきてしまいます。くじらさんがたべると、新しいうんちができて、いまのぼくより大きくなるので、それに、くじらさん大きいからうんちも大きいし……。おねがいします。ぼくをたべてください。」くじらは、「うんいいよ。じゃあたべるね。いくよ。」パク……。とうとうくじらはうんちくんを食べてしまいま

した。うんちは、またまた「あれーえ。」と言って、くじらのからだを、ぐねぐねまがって、くじらのおなかに入りました。

次の日、くじらのおしりから、うんちがでてきました。ついに、あたらしいうんちくんがさんじようしたのです。くじらでしたから、大きいし、うんちがよく、大きいので15キロのうんちくんなので、すごく大きいとくだいいうんちくんでした。うんちくんが大きいと長く、ぜんぶとけないでいられるのです。うんちくんは、くじらさんに「ありがとう。」と言って、またおよぎだしました。〔中略〕

もうすぐ、うんちくんのからだがなくなってしまうような時、やつとことできりにたどりつきました。そこはうんちの国でした。うんちくんは、そこで、のんびりくらししました。うんちくんの小学校でも、先生の40倍の大きさだというそうです。ものすごく大きいうんちくんだったんです。

1998 聖徳 2年女子
おしゃべりうんちくんの説得力はすばらしい。くじらに食べてもらってパワーアップしている。

例22

〔前略〕
くまはうんちちょうの家を木で作ってくれました。くまくとうんち3人組はいつしよなかよくくらししたとさ。お、し、ま、い。

2000 玉川 2年女子

例23

〔前略〕
いどをほってだいやのこうみやくをみつけてしあわせにくらししました。

1998 聖徳 1年男子

例24

〔前略〕
それでみんなはいいえをみつけたからみんなはそのいえにすんでみんないいおうちをみつけたのしくくらししました。

1998 聖徳 2年女子

これらのように「たのしく、なかよく、しあわせにくらししました。」といううんちくんも多かった。冒険とは違いたのしさを味わううんちくんもいた。

例25

うんちのかぞくは、たのしいですよ。うんちママ、うんちパパ、うんちおとうと、うんちねえさん、うんちいもうとがいます。うんちママは買い物に行つて、うんちパパは会社に行つてうんちおとうと、いもうとは、うんちママといっしよにようち園に行きました。うんちねえさんは高校に行きました。だいぶじかんがたつてから「ただいまあ。」と、みんなかえつてきました。よるごはんは、うんちカレーです。〔中略〕

でもねるときも「グーグーグースカピースカグーグーグーグースカ。」ああ、うるせー。ほらうんちのかぞくはたのしいでしょ。あしたはもっとたのしそうですよ。

1998 聖徳 1年男子

Ⅱ 世界定め(イメージネーション)の没我と停滞

「うんちのかぞく」と言いながら人間の家族の生活をそのまま書いているところが興味深い。うんち君の行動を読んでいると、その1つ1つから生きていくことの実感が伝わってきた。

子どもたちがうんち君になりきって書いた冒険の旅を読んでみると、この子たちなら、これから先の人生でどんな困難に出会つてものりこえていけるのではないかという気持ちになる。今回のテーマである野性を感じずにはいられない。生まれて旅をしながら多くの出会いを重ね、様々な困難を乗り越えて生きる力、人間が地球の歴史の一部になり得たエネルギーが伝わってくる。「あしたはもっとたのしそうですよ。」と未来に向かっているところに、子どもたちの可能性を感じる。

上原輝男先生は「夢作文と個性(注8)」の中で「低学年では分母を夢とし、分子を現実とする。〔中略〕低学年児はイメージの誘導に従つて現実生活をしているという意味である。」と述べている。さらに続けて「中学年の夢の特徴として低学年のところで述べた分

母と分子が入れ替わるように思われる。現実を分母とするために、現実願望を夢とするものが多くなる。だから意表をつくようである。その実、常識的である。」と指摘している。その後の研究でもこの見解はより確かなものとなった。今回もうんち君に命を感じたり、うん

ち君になりきって冒険するというのはまさに分子と分母が入れ替わる以前の姿だと言える。

子どもが現実を意識し始めたとき、うんち作文はどう書かれるようになるのか。この章では分子と分母が入れ替わる場所に注目することにした。

1 うんちだらけの夢

例 26

あるひ ぼくが うんちをふんでころんだ。おばさんが「だいじょうぶ」といつてくれた。そのおばさんの家について見るとハエが ぶんぶん とんでいた。そしておばさんが「おはきたべる。」といった。ぼくは「うん」といった。たべたらはいてしまった。だってあんこじゃなくてうんちだったんだもの。すると「じゅうすのむ。」といってぼくは「うん。」といった。のんでみるとまたはいた。またうんちをとかしたじゅうすだったからである。そしてかえるときうんちだらけでかえつたらうんちまみれになっていておふるにはいったらうんち色のおふるだった。ぼくはにげだしてやつとじぶんちにかえれた。

1998 町四小 3年男子

うんちをふんでころんだところから非現実の世界に入っている。「うんちおばば」という題をつけているところからもここでのうんちはおばさんが出してくれた物であって生命体ではない。うんちまみれ、うんちだらけの非現実世界ではあるが、うんちにまみれ、うんちだらけになる自分がいるところが、うんちくんの冒険話とは違う。「ぼくはにげだしてやつとじぶんちにかえれた。」で終わっているように、現実世界と一線を引いているのである。

例 27

あそ山で雲を見ていたら、雲がうんちにかわって、ポトポトとおちてきました。それでいそいで山をおりたら、お店がありました。そのお店のかんばんに、うんち店とかいてありました。そしてまたうんちが、おちてきました。いそいで東京に、にげると、またうんちがおちてきて、東京の人は、雨だと思ってかささしていたら、かさの上はおもくなったのでひっくりかえしてみるとうんちがついていました。そしてらかさのうんちも、その人の頭も、うんちだらけになりました。海でも、うんちがふつてきたので船は、うんちだらけになり、海もうんちだらけになってしま

いました。これがつづいてせかいじゅうがうんちだらけになってしまいました。本当は、地図にもうんちをかかなければなりません。でも、せかいじゅうみんなうれしかったみたいですよ。2・3日たつたら、うんちは、なくなっていたけど、船はこわれてしずんだままです。そしていきなり、大雨がふつてきました。さっききた人は、帰りました。終

1998 聖徳 2年男子

この作文には「うんちの雲」という題名が付いている。雲からおちてきたうんちで世界中うんちだらけになって、「みんなうれしかったみたいです。」というのだ。現実世界との間に一線を引いているとはいえうんちの世界にいる間は我を忘れてうんちまみれになっている。

例 28

〈前略〉

Y君は電車の中でいつもきたないうんちやおしっここの話をする。でもそれがおもしろくておもしろくて立てなくなるぐらいおもしろいのでK君に迷惑をかけたります。そしてYは雨はおしっこ、土はうんちといった話をして皆をわらわせたります。

る。そしてY君はうんちとおしっこの歌を歌ったりする。

1998 聖徳 1年男子

うんち話で友だちを楽しませてくれるY君が書いたうんち作文の題名は「うんちいっぱい」だった。

例 29

あるひゆうきさまがおきてトイレをしようとおもっていたらトイレにでつかいうんちがあつたのでうんちができなくてパンツにうんちをしてしまつてくさくさパンツになりました。がっこうについてあるいているといぬのふんがおちてあしをみたらうんちをふんできました。そしてえきまでのあいだでうんちをもらしてもつとパンツがくさくなりました。

〈中略〉みずたまりであらいました。でもちよつとくさい。それで

がっこうについてうんちがしたいのでトイレにいったらうんちをしたらでつかいうんちがでたよ。おそうじのおばさんにいったらおそうじするのができませんといいました。それでこまつたからたべちゃいました。それでおべんとうがたべられなくなつておべんとうがおわつたらトイレにすぐいってげぼしてせんぼうん

ちでした。それでかえってまたおんなじことをしてあるいているときおべんとうをぜんぶたべてかえりました。おわり。ちゃんちゃん。

1998 聖徳 1年男子

もらしたり、ふんだり、たべちゃったり、げぼしたり、生理感覚が友だちの心をとらえるのであろう。あんまり長いうんちの世界を語ったので「ちゃんちゃん」でその臭いをふりはらって、現実世界に帰ってきたYくんである。うんち話が得意なのは男子だけではない。

例30

わたしは、道を歩いていました。道歩いてみると、空から、茶色や黒色のうんちがポトポトとおちてきました。わたしはいそいでにげました。そこに、ふねが、あったのでふねのりしました。すると、いきなりふねがうごきだして何かの島にたどりつきました。そこは、うんちの島とかいってありました。ちょっとおもしろくなって、中に入ってみました。中には、だれもいませんでした。うんちの島なので、アイスクリームが、ウンチクリームになっていました。「うわあ。こんなのやだあ。」とわたしはいいました。それに地面もうんちな

のです。(中略) さっさと帰ろうと思つたらどこにも出口がないのです。何か丸い出口を見つけた。そこに入ってみると、うんちのおしろがありました。それもうんちでできています。中にはいろいろと思いましたが、入口がありません。とにかく、もう一つの出口から出てみました。そしたら草がいっぱい生えていました。ふねで自分の家に帰りました。

つぎの日、もう一ど行ってみようと思つたらうんちの島がきえていました。「あれえ。おかしいなあ。」

1998 南平小 3年女子

この子が作文を書き終えた時、「たのしかった」「すっきりした」と笑顔で話してくれたことが印象に残っている。うんちの国で「出口」と「入り口」をさがしているのだが、それらは自分の意志で動かせないところにある。うんちの国は夢の国だということなのだろう。「夢はいつも世界限定とともにあるということができる。同時に、それはいつも世界時空転換を意味している。このような時空の転換のイマジネーションは私どもの研究会ではトランスフォーメーションと言っているが、その世界定めが突飛であり、明瞭であればあるほど、即ち、時空転換の強烈なものほ

ど、これこそ夢の力であると思つているのである(注9) 以上は上原輝男先生のことばである。うんちまみれうんちだらけを夢見ているときの子どもは、時間、空間を超越した世界定めをしているのだということである。

2 隠蔽と拒絶

うんちまみれになることを楽しんでる作文とは裏腹にうんちを拒絶するもの、自分のうんちを隠そうとするものがある。それらをイマジネーションが停滞している状態と判断していいのかどうか考えてみたい。

例31

むかしベリーというおんなのことがいました。そのこは、とてもいじわるで、とてもかっこつけていました。ある朝そのこはがっこうに行くときうんちをもらしてしまいました。そのこは、やばっと思いました。いままにかえてこようかなっと思いましたがもうすぐべんきょうがはじまつてしまうと思つたのでとりあえず学校に行きました。ほけんしつに行っ

てパンツをかえようかなーと思つたのですがもう時間がありません。どうしようと思ひながらきょうしつにむかいます。3年生のきょうしつは、こすいやおはなのかおりでいっぱいですが、でも、ベリーが足を一歩ふみ入れたとたん、きょうしつのまわりは、うんちのにおいでいっぱいです。おともだちは、くっさいといっています。ベリーはどうしようともこまつています。でもベリーは自分がかわいと思つているので、しらんぷりベリーは、つくえにらんどせるをおいてきょうかしよをおどくばこの中にいれていすにすわるとうんちがぶにゆぶにゆといつてベリーはドキドキしました。ベリーののおともだちが「ねー。いまぶにゆぶにゆつておとしなかつたー。」うん、した。したねー。もしかしてベリー。」ベリーはかおをまっかにさせて「うんうん。ちがうよー。」といいました。それで1時間めもみんなおわつてかえりました。ベリーは、いそいで家にかえりました。それでベリーは、いそいでくつをぬいでいると、パッキンとかびんをわつてしまいました。それでおかあさんが「どうしたの。」とききました。ベリーは、ビツクリしたかおでかびんのかけらをみつめています。おかあさんはかおをまっかにさせて

あたまたつのを2ほんとがらせています。ペリーは、おかあさんに「100かいおしりペンペンよー」といわれて

「やっぱー」とすごく思いました。おかあさんにパンツをおろされてしまいました。おかあさんに「キヤーー」といわれてビックリしたペリーは、ふとんの中にもぐってしまいました。ふとんにはうんちがベチヨベチヨについています。おかあさんに見つけられたペリーは、おかあさんにおふろばにつれてかれました。それでおしりをシャワーであらわれてようやくあんしんしました。おわり。

2000 山田小 2年女子

パンツについたうんちを水たまりで洗った例28との違いは、うんちを隠しておそうとしているところにある。おしりはすっかりうんちだらけなのに、友だちにもお母さんにも隠している。見つきりそうになっても隠しとおそうとするエネルギーは、「そのこは、とつてもいじわるでとつてもかっこつけていました。」「自分がかわいと思うているのでしらんぷり。」といった自己意識にあるようだ。

自分が2年生でありながら3年生の女の子の話として書いてある点、おか

あさんにあらってもらって「ようやくあんしんしました。」と書いてある点にこの子の本音と立て前を読むことができる。

うんちによって誘引されたイメージが直接生理現象と結びついているために、強い羞恥心を生じてしまった例もある。

例32

むちゃくちゃくさいうんちを考えるとときもちわるいし、うんちのけはきそうなかんじがします。でも、わたしはがっこうからかえってきて、すぐにうんちがでそうになりました。それは先生、だれにもいわないでね。ふたりのひみつだよ。わかった、ぜったいにいわないでね。ひ・み・つ・だ・よ。なんてね。でもひみつはまもつてね。だからみんなにも「Uちゃんのにおもしろいよ。」なんて、ぜったいにだれにもいっちゃだめだからね。

わたしはあそべる日があまりないので、すぐうんちがでそうになつてもがまんするときがあります。でもがまんするとすつきりしないからたまにがまんしないでするときがあります。Aちゃんとよくあそびます。そして、うんちちゅうにAちゃんがく

るときがあります。「Uちゃん、まだ〜」とAちゃんがいうから「ちよつとまって〜」すぐおわるからねー」「Uちゃんなにしてるのー」といつてわたしは「うんちしてるのー」といつてしまいました。わたしはずかしくしてたまりませんでした。でもAちゃんはぜんぜんわらいませんでした。あそぶとき、わたしはAちゃんに「なんでさっきなんでわらわなかったの？」といいま

まっていた。わたしは心のなかで「きつとAちゃんはほんとうはわらつていんだな〜」とおもいました。Aちゃんにきいてみたら「わたしもよくうんちするよ。」といいました。

2000 山田小 2年女子

ここでは「人にわられるようなこととはしたくない。」という自己意識が働いている。まさに現実願望にとらわれて、イメージネーションが停滞してしまっている状態だといえる。イメージネーションに誘導されるままうんちの話をして友だちを笑わせることを得意とするY君(例29)とは対照的である。

くり返すようだがイメージネーションを分母として生活していた子どもが4

年生前後になると現実を分母として生活するようになるというのが我々の見解である。分子と分母の転換にもなって、イメージネーションの運動が変化するのは当然だが低学年でも現実を意識するあまりイメージネーションが停滞してしまうことがあるという点において、うんち作文は特殊である。イメージネーションの停滞は拒絶、軽蔑という形でも見られる。

例33

私はよく「うんちはなんてきたないんだろ〜」と思います。本当にうんちという文字を聞くと、「きたない」という感じがする。すると、うんちという文字は、聞きたくもないし、書きたくもない。〈後略〉

1986 本村小 4年女子

例34

うんちという言葉聞いてると美しいというイメージは思い浮かばない。やはりきたないものに感じる。だから、食事などの時にはうんち、うんこ、くそという言葉は、いえはけいべつされるし、言う気にもなれない。〈後略〉

1986 聖徳 6年男子

言うのも、聞くのもいや、書くのもいや、と、まるで「くさいものにふた」である。

例 35

僕のクラスでは、一時「うんち、大好き〜」などとやった。しかしやらせた本人は、今はさすがにやっていない。そのためか、今のクラスで、うんちの話題がでるとみんな「きたない。」とは言いが、わらっている。その時、

「何を考えているんだばかやろう。」
とでも、言いたくなってくる。こういう人達は、自分の行動をふりかえってみて、自分がはずかしくならなければおかしいと思う。

1986 聖徳 6年男子

うんち話をして笑うことへの反発、批判が伝わってくる。

例 36

「百人の人を前にして、「うんち〜」とさげぶのは、まず容易ではないだろう。目の前でうんちとさげばれた百人の人は、
〜何、この人
〜きたない

などと思われ、おかしな目で見られるのがおちである。また、百人の人にうんちからなにを連想しますかと聞けば、まじめにパツと思いつく感じは〜きたない〜であろう。それは、うんちそのもの自体が、常識として、〜きたない〜と思われるからである。〜中略〜 うんちは少なくともこの日本の常識として、きたないとされているのだ。これをくつがえすのは、容易ではない。

1986 聖徳 6年男子

「おかしな目で見られるのがおちであろう。」とあるようにこの例も現実願望にとらわれている。「世間ばなれしている」とか「常識しらず」とか言われずに「世の中」で生きていくためには生理感覚もコントロールすべきだという主張が伝わってくる。

数少ない高学年の作文は以上のような例ばかりで、うんちくんが大活躍するような例は見られなかった。うんちの話題は「何を考えているんだばかやろう」で終わってしまうのだろうか。

III 時空転換(イメージネーションの野性と神性)

うんち作文に見られたイメージネーションは没我性が強かった。予見性、邂逅性、没我性、祈祷性の4つは、「穴、夕日、夢、人形、おうち」の作文に見られたイメージネーションの性質である。(注10)これらの作文と同様、うんち作文に見られたイメージネーションは、知識や経験の有無にかかわらず情動に誘引されたものである。しかし、うんち作文には強い生理感が伴っている点、身体感覚抜きではすまされない点が、いままでのものとは違っている。そのためか、邂逅性、祈祷性を見出すのが困難だった。

これまでの研究では、中学年で分子と分母の転換を起し、一度停滞したイメージネーションが高学年になって新たに動き出していた。そのイメージネーションは力強く、現実の呪縛から解放された子どもたちが、ひと回りもふた回りも大きくなって自由を楽しんでいるように思えた。今回は高学年の作文の数が少ないこともあるが、イメージネーションが隠蔽されてしまっている分子と分母の転換が起きた後のイメージネーションのゆくえが見えてこないのである。夕日や人形は自分を映す鏡になっていた。高学年になって再びイメージネーションが活性化されると自

己との対話があり得ることを知り、子どもたちの未来にも希望が持てた。うんちのイメージネーションは未来につながらないのだろうか。うんちの生理感が強ければ強いほど、現実からのがれられないのかもしれない。かつこよくうんちの話を語るにはむずかしいということなのだ。低学年では我を忘れて入り込んでいたうんちの世界が現実を意識した時点で、地獄の世界になってしまふ。うんちに誘引されたイメージネーションには、天国と地獄が共存しているとも考えられる。今回の研究テーマである野性と神性も、うんちのイメージネーションの中では、紙一重の状態にあるということなのだろうか。

うんちを体内から産み出すことの実感を考えるとうんちのイメージネーションは性のイメージネーションとからみあいながら動いていくのではないかという説が立てられる。上原輝男先生が「うんち話は子どもにとっての猥談だよ。」と言われていたことを思い出した。高学年にとっては性に向かって心を解放するといふ課題が残されているということなのだろう。最近では女子の多くが小学生の間に初潮をむかえるということも考え合わせると大切に考えなけ

ればならない課題である。

高学年の子どものイマジネーションが停滞しているというのであれば、低学年の活発なイマジネーションを思いかえすことよって現実の呪縛を解く鍵をさがしてみたらどうか。高学年の子どもになりかわって、うんちを鏡にしてみようというのである。まずは、野性的なうんち作文からエネルギーの源を探ってみよう。

1 ひんちやんの対話

例 37

家には、二匹の犬がいます。

二匹は、いつも自分がしたウンコを食べようとします。すると、私が注意して、食べさせなくすると、だいたいいつも私をかなしそうな目で見つめます。

ついこの間、お母さんに、「何でうんちを食べるの。うちのいぬは？」と聞くと、「口でたべる。」とか「食べたいから。」とか、ふざけていて、全々教えてくれないので、犬をもらったどうぶつびょういんの先生に聞いてみると、むずかしい言葉を色々使って言うのでさっぱりいみがわからなかった。

でも、どうしてもゆうがしりた

いから、今度は、となりの小林さんに聞いてみた。すると、おばさんはこんなことをはなしてくれた。それは。

「未来ちゃん、それはねー二匹ともむかし5年位前、地球じゃない星にいてねー、その星の名はうんち星と言つて、二匹ともその星の王子さまとおひめさまだったんだよ。それでねーその星は名前のとおり、うんちを食べる星なのよ。だからうんちをたべようとするのよ、わかった。」と聞くので「うん、でもなんで地球なんかに来たの。」と聞くと「それは、うんち星でせんそうがおきてねー、それでみんなが二匹をうちゅうせんにがして、それで、三年後にやっと地球にたどりついて、みらいちゃんにすみついたわけだよ。」

すると私が「うんち星では言葉をしやべっていたのに、なんで地球に来るとしやべれなくなるの？」と聞くと、「地球に来る時、富士山にぶつかって、その時にパッパラパーになったんだよ。あつ、そうそう、この前ふじ山がばくはつしたでしょう。その時は、うちゅうせんがぶつかって大ばくはつをおこしたんだよ。」というので「へー」とか「ふーん」とか「そーなの」とか言いながら、かんしんして聞いていた。

そして、少しするとうわさをしていた二匹の犬が来て、私が「おみゃーさんらは、本当にうんち星の人か。」ときくと、なんか耳の中でうっすらと「はい、私たちは、うんちせいの子とおひめです。」ときこえてきた。これでやっとわかったけど、うちの二ひきのいぬはうんちを食べるうんちせいの犬だからうんちを食べるのか。

1986 聖徳 3年女子

のりのりのうんち作文である。ぜんぶうそと言ってしまったそれまでだが時間空間を超越したうんちの世界が開いている。主人公のみらいちゃんはお母さんやとなりの小林さんに聞いかける。みらいちゃんと小林さんの問答は興味深い。小林さんの解説に感心しながらもみらいちゃんは、さらに二匹に問いかけた末、「やっとわかった。」ところで終わっている。

自分と自分の話をきいてくれる相手との対話を重ねることよって自分の出会おうとするところは、まるでラカンの精神分析のようである。(注1)自分の中でこのような対話ができたらカウンセリングを受けなくても元気いられる。

例 38

ぼくのうんちは、かならず2こか3こである。学校から帰つてくると、ぼくは、

「うんち、うんち早くしないとでちゃうよ。」といつも言っている。ぼくは、うんちがでると、

「はあ、よかった。もうちょっとでもらすとよかった。」

そして、おかしをたべおわると、また、

「うんこうんこ早くしないともらしちゃう、けど、友だちもまつてるし、どうしよう。でも、ちょっとしちゃうおつかない。しょうがない。しちゃう。」

と、いったら、お母さんも、

「うんち、うんち、早くしないとれちゃうよ。」といって、ぼくは、

「ぼくがさきに、とったんだよ。ぼくが、さきに、するんだよ。」そして、

いったら、おかあさんが

「ダメダメ、もうもうもれちゃんから。」といったら、ぼくが、

「それじゃ、じゃんけんだ。」といつて、お母さんが、

「いいよ。さいしょはグー、ジャンケンポン。」そして、ぼくは、

「よっしゃラッキー。」そして、お母さんが、

「ちくしょう、まあいっか。あとでする。」

そして、ぼくは、うたいました。

「母さんまけてくやしがつた。オレはうんこをいっばいして、ごくらく、ごくらく。ババアはおになつている。」

とうたつたら、お母さんは、

「なんだよ、バーカ。」といって、いかっていました。

そしてぼくは、

「これからも、ジャンケンで勝つぞ。」
といってそとにあそびにいきました。

2000 町四小 3年男子

お母さんとぼくが便所をうばいあつている。ジャンケンで勝負をしているところには、母と対等の関係にありたいというぼくの思いが感じられるし、勝つたときの歌がおもしろい。「バーカ」と言い返すお母さんに「これからジャンケンで勝つぞ。」と言って外に遊びに行くところは、母からの自立を予見しているようにも見える。

例39

ある所にうんち君という子がいました。

そのこは、名前のとおり5分に戻は、うんちをするのです。

ある日うんち君たちのAチーム対Bチームで野球をしていました。

うんち君は、ピンチヒッターよなので、うんちをするきかいは何度もありました。

そして、ついにピンチヒッターの出番になりました。

すると、バッターボックスにはいつた時にうんちがしたくなつてきました。

うんち君は、「どうしようかな。ピンチヒッターやめてもらおうかな。だけど打ちたいな。」と思い、打つことにしました。

「カキーン」うんち君の打った玉は、ホームランになりました。

そして、ベースを回っていると、三塁でたえきれなくなつてうんちをもらしてしまいました。

するとみんなは「わっ」と言いながらかけよつて、「こいつうんちもらしてやんの。バカじゃねえ。」とか、「バッチイなあ。みんな、これからこいつのこと、おもらし君つてよぼよぜ。」と、言われうんち君はしょぼんとしながら家に帰りました。

そうしたら母のしょんべんが電話をかけていたので、おわたたら何だつたのかきいてみようと思いました。

電話がおわたつたのでしょんべんにきいてみたら、「あんたよくうんちで

るから大小便病院に明日手じゅつするよにいつといたよ。」という答えが帰つてきた。

うんち君は、ただぼよんと、たつていました。そして手じゅつつ当日になりました。

〈中略〉

そして、先生は、「ん、これは、今一番こわい病きの、大便秘じょうちゅうい報かもしれんぞ。」と、言いました。それで、数分後、先生は、「これは命があぶない。たいへんだ。」と、言い、すぐにますいをうんち君にうつて、ねむらせ、おしりをきりひらきました。

〈中略〉

このままだと、うんち君の命が、あさつての朝でおわたつてしまうので、先生はあせりました。

しかし、そのうちに、先生もねてしまいました。

その次の日の朝、先生はいませんでした。

先生は、これならきくかもしれないという薬をさがしていたのです。

〈中略〉

うんち君は、注射きをえらびました。それをうつと、うんち君は、なかなかうんちがでなくなり病気がなおつた。ということになりました。

1986 聖徳 3年男子

大便異常注意報というおそろしい病で生死をさまよつたうんち君は、新薬によつて元気になった。うんちコントロールのできる健康な体が大切なことがわかる。友だちにからかわれたからといって命にかかわる重大問題から逃げることはできない。母親や医師に助けられながら正常な状態にたどりついている。

2 戦ううんちくん

人間の歴史が戦いの歴史であること
を彷彿するよううんちくんの冒険も
ある。

例40

〈前略〉

ガスオ(うんちくん)は「人げんなんてさいていだ。たきつぷす。」とガスオはいつて人げんせかいのこともしらずにきみよなぼよけんに出たのです。じつは人げんはまほうつかいのウンチたちにじゅもんをかけるれてなんともざんこくな人げんになつてしまつたのです。「ちくしょう。」とガスオはしたうちしました。そいつらをたおさなければむかしの人げんはウンチとつてもなががよ

かったのにぎんこくのウンチたちの
バスラモスたちをやっつけるぼうけ
んのたびにでたのです。そして、なん
と、すぐでたときにモンスターがあ
らわれたのです。ガオスはこまっ
てこうげきをしたら一げきでたおれ
て、しんでしまった。モンスターのよ
ろいのけんよりのどのどのつのお
どうぎみたいのをひろってにいれ
た。

〔中略〕

モンスターをなかまにして名前をき
めた。ユウスケとカズオです。三人は
つぎつぎにモンスターをなかまにし
て、とうとうまほうつかいのバスラ
モスとのたいけつをしたかったが、
あとまわしにして、レベルあげをし
て、とうとうバスラモスのたたかい
をもうし入れた。バスラモスはしん
ちようはなんと500000cmでた
いじゆうは100000キ口で、か
てつこないです。がたかかつてみま
した。が、2たりのモンスターがやら
れてあとはガスオだけです。「やば
い。」と思ったガスオはやめようと
思ったけど、やっぱ人げんせかいと
なかよくになりたいし、たたかいのな
かまのユウスケやカズオのかたきを
うたなきやと思うと、なんかたびの
くろうがいみがなくなる。なかまや
モンスターにわるいと思つてたたか

いをやることにしました。
〔中略〕

こんどはガスオのこうげきで一げき
でしにました。こんどこそしにまし
た。人げんとくんちはもとどおりに
なつて人げんとウンチはガスオに「
ありがとう、ありがとう。」と言つて
人げん、ウンチなかよくくらしまし
て、もうきみようなほうけんはな
かつたとき。おしまいおしまい。

1998 町四小 3年男子

いのちがけの旅に出てくる人間は

「まほう使いのうんちにじゅもんをかけ
られてなんともぎんこくな人間」にさ
れている。だれかのうんちからとび出
したガスオはいのちがけでバスラモス
をたおし、「もとどおり、人げん、ウン
チなかよくくらしまして、もうきみよ
うなほうけんはなかつたとき。」で終
わつている。うんちくんの敵は人間で
はなく、人間をまほうにかけたバスラ
モスだつたというところがロマンチッ
クである。長い長いストーリーは子ど
もたちが熱中しているロールプレイ
ゲームのようにも思える。ファミコン
のカセットにたよらなくてもトランス
フォーメーションを起こせば自分の力
で夢と冒険のロマンが楽しめるという
ことなのだ。

例41

『プププ……プリリン』うんちくん
は、自分の家、つまり、だれかのおし
りから、外にでました。
「ふーつかれたな。どこに行こうか
な。ぶらついてみよう。」

〔中略〕

ゴールにつきました。すると、犬が
いて、うんちをしていました。うんち
さんたちの中にかわいい女の子のう
んちちゃんがありました。

うんちくんは、目がハートになつ
て、

「か、か、かわいいい。」と言つて、
うんちちゃんの方に行きました。

するとうんちちゃんのまわりにいた
うんちさんたちがギロツとうんちく
んをにらみました。うんちさんたち
は、ほうそうぞくでもあり、どろほう
でもありました。けれど、ほんとう
のすがたは、とうぞくでした。それは
子どもですが、うんち君より年上で
した。そして、うんちさんたちより年
上でした。そして、うんちさんたちよ
り年下のうんちちゃんを、ゆうかい
しようとしていたのです。うんちく
んは、

「やめろ、そんなことしたらひきよう
だ。くやしかつたらばくにたたか
いしければいいじゃないか。」

と言つてやつたのです。うんちきん
たちは、

「なに、こなまいきな。そんなこと言
うなら、おれたちとたたかってみろ
よ。」と、言つてきました。それから
うんちくんはたたかうことにしまし
た。

〔中略〕

それから二人は沢さん歩きました。
そして海につきました。そこはみな
とでした。さんばしを見ると、一せき
のこうか船が止まっています。う
んち君は

「このこうか船に乗つてオーストラリ
アのケアンズに行こう。」と言つてう
んちちゃんを、かかえて走りまし
た。

〔中略〕

そして、ねる時、うんち君と、うんち
ちゃんは、べんちの下でよりそつて
ねました。次の朝、おきるとケアンズ
についていました。二人は、船からお
りてジャングルに行くことになりま
した。

〔中略〕

奥に行くためふんがありました。
そのよこに、穴があつたので入つて
みるとうんちタウンがありました。
そこには多ぜいのうんちがいました。
うんち君たちはそこにしばらく住む
ことにしました。

タウンを出てジャングルの出口を

目ざして歩いていると、いきなり犬があらわれて、うんち君たちを食べてしまいました。それからその犬は日本にもどりました。そしてまた犬のうんちになりました。

1998 聖徳 2年女子

うんちちゃんとの出会いがうんち君の冒険をよりドラマチックなものにしている。穴の世界でも得た幸せな暮らしで終わらせずに、「また日本にもどりました。そしてまた犬のうんちになります。」とつなげているところに邂逅性を見出すことができる。思いがめぐるところ、未来にむけて循環するイマジネーションをはっきりと示しているところは、まさに邂逅性である。

うんちのイマジネーションは夢とロマンの大冒険になるか、ふたをして隠してしまいたい程くさくてけがらわしいものになるか紙一重の状態で動いているということがわかってきた。子どもが見ている世界には、天国と地獄が共存している。うんちくんになって様々な困難と戦って生き続ける姿は野性であるが、うんちくんの誕生は神秘で謎めいている。「三枚のお札」という昔話で、便所の神様が、小僧さんの身代わりになってやまんばから身を守ってくれる場面を思い出した。うんちにも神を感じ、信じれば、困難も切り抜けら

れるのである。野性と神性は表裏一体ということなのだろうか。

幼児の絵本にはうんちをテーマにしたものが多くある。それらは、必ずしもトイレトレーニングを目的としているものではない。うんちをすることは快感であり、自分のしたうんちを見ることは楽しいといったメッセージが盛り込まれている。子どもをしつける上で社会人としての常識や健康管理の技能を修得させることは大切だが、心の成長発達を考えると、それ以上にうんちのイマジネーションを活性化させることの意味は大きい。さらにうんちのイマジネーションを身近な人と共有しあえたら、生きる喜びは大きくなるだろう。例28のY君がいるクラスの子どもたちはそのことを知って楽しんでいて、一方で「かわいい、かわいいと思われない」という自己意識が強い人でも救われる方法があることを、子どもたちは知っている。

3 おとぎ話のうんちくん

例42

とんとむかし、おじいさんとおばあさんがいました。おじいさんは川にせんたく、おばあさんは山にまき

ひろい。おじいさんが川でせんたくしていると、大きな大きなきよ大うんちがながれてきました。おじいさんはそのうんちをひろって家の前まではこびました。それで走っておばあさんのいる山まで行きました。

〔中略〕 それでおじいさんは、おばあさんに大きなうんちを見せようとおもったけれど、うんちは家の前にはありません。家の後ろに行ってみると、そのきよ大うんちはにじいろになってできました。おじいさんはそのうんちをないふで切るとその中からうんちがまた出てきました。そのうんちをはえにあげるとおれいに大きな家をくれました。めでたしめでたし。

2000 玉川 2年男子

「しあわせを呼ぶうんち」という題をつけたくなるような、うんちのおとぎ話である。

例43

ある村に天才のおじいさんとおばあさんがいました。そのおばあさんおじいさんはお金もちでした。〔中略〕 おばさんとおじいさんは、さっそくうんちとおしっこをしました。するとうんちがうれしそうにでました。お

しっこもすぐくわらってでました。〔中略〕 そしてひこうきに乗ってアメリカにつくとおしっこうんちはおおよるこびりで外にでました。そしてホテルにとまりました。そこがごうかなこと、ごうかなこと。おんせんやベットもごうかでした。でもうんことおしっこはトイレです。でもはじめのアメリカのトイレははいりごちがいいのでトイレでもよかったです。〔中略〕 そしてうんことおしっこくんはアメリカのトイレですつとずつとわらってトイレの中にいました。

1999 町四小 3年女子

うんちもおとぎ話や昔話のオブジェクトにつまれば、隠蔽されなくてもよいのではないだろうか。そのことを知っている子どもたちは、生々しい生理感とは少しだけ離れたところでイマジネーションを動かしているようだ。

4 うんちから穴へ

うんちのイマジネーションが3年生でピークに達した後、停滞してしまうのであれば、その停滞から脱出するために、用意されているイマジネーションは何かという課題が残る。この章の

はじめにも述べたが、それは性に向かうイマジネーションであることに間違いないと思う。

もう20年も前のことになるが6年生の国語の教科書に「どろんこまつり」という物語が掲載された時期があった。(注12)舞台は南国土佐。男の子みたいな女の子せっちゃんとおとなしい男の子の三郎の話である。子どもたちの反応がよく、教材としても手応えのある作品だったのだが、「女らしさ、男らしさという固定された価値観を教えることになる」という批判をあびてから後、教科書から姿を消してしまった。

どろんこ祭りの中で2人が性にめざめるのだが、女の着物を着た三郎が男の着物を着たせっちゃんにどろをぬったことがきっかけになっているところが興味深い。今回改めて作品を読んでみると、これは、うんちのイマジネーションが進んだ際に行き着く世界の1つなのではないかという思いにかられる。どろまみれ、どろだらけになった2人が人格転換を起こすところはセックスにつながるイマジネーションなのではないだろうか。性に向かうイマジネーションを活性化させるという意味では、高学年の子どもと一緒に読む意味のある作品である。

例44

うんちは、きたないけどうんちは大事なんだ。あんな大きいうんちがおしりのちっちゃいあなから出るなんておもえない。ときどきへんなゲボみたいなやわらかいうんちが出る。かたいうんちのときおしりがいたくなる。がっこうのかえりにきゅうしよくをいっばいたべるからうんちがもれそうになる。

1998 町四小 3年男子

例45

うんちとは、なんとなくかわいいイメージがあり、本来のくささを考えさせない名である。と私は感じました。私にとってうんちとは、子供の時になんとなく好感があり、いつも、おむつにしたうんちを母に必ず見せてもらったこともあり、かっていた犬のうんちをわりばしでついたりしていたこともありました。私はどちらかと言うと、うんちより、うんちを出すおしりの穴になんかききょうみがあったらしく動物園のしかにクッキーをあけたらたべなかつたのでおしりの穴にクッキーをつっこんでそのしかをおこらせたこともありまし

私のまとめとしてはうんちよりうんちの出る穴の方がおもしろいと思いました。

1986 聖徳 6年男子

どちらもうんちのイマジネーションから出発して穴のイマジネーションに目が向けられている。そもそも我々の研究が穴作文から始まったことを思うと納得できる展開である。高学年になつてうんちを語ることができなくなつても、穴なら語れることを知り、安心した。

例46

むかしむかしある村におつきいほがありました。そのつぼは村のまもりがみでそのつぼの中をみた人はいません。みんなはつぼの中をみようとつぼをのほりました。でもとちゅうでつるつるすべつてなかなかのぼれません。つるつるすべつところをこえた人もいますがまだ大

きくてまだつるつるしています。その人はまだまだがんばります。でもすべつておちてしまいました。しかし人々はすつとのほっています。そのうち21人が生きのこっています。そのうち11人がおちていきました。そのこりは10人になりました。またぐんぐんのぼると、なんといわがころがつてきました。人々たちはよけました。そのうち5人は岩にはじきとばされました。のこりは5人になりました。そのうち4人がおちてしまいました。そのうち1人になりました。そしてその人はついに上までいくことができました。そのなかはなんととてもきれいなうんちだったとき。おしまい。

1998 町四小 3年男子

この作文には「つぼの中のうんこの話」という題がついている。つぼを子宮うんちを卵子、人々を精子に見立てるとこの話は受精の話になる。受精こそ生命の神秘である。

おわりに

はじめにでも告白したように本稿は大変な難産だった。上原輝男先生に課題をいただいたから16年もかかってし

まったのだから。まわりが黄色っぽく変色してしまつた原稿用紙もあるし、うんち作文を書いた子どもたちの一部

は、とつくとつに大人になってしまっ
た。言い訳になるが、イマジネーシ
ョンの研究を積み重ねたからこそ、野性
と神性を見いだすことができたと思
いが強い。上原輝男先生が亡くなる前
に「次は野性と神性だね」と言われた意
味が少し見えてきたような気がする。
私は今2年生の子どもを担任してい
る。12月24日には2002年最後の作
文としてうんち作文を書いてもらった。
子どもたちの興奮は16年前と変わって

●注

いない。「えーっ」「やだーあ」という声
は喜びであり反発でもあった。ひとり
ひとりの子どもの顔を思い浮かべなが
ら作文を読んだ。元気なうんちくんを
書いた子もあればうんちをさけている
自分を書いた子もいる。3学期は子ど
もたちとうんち話に花を咲かせたい。
生きる力を育てるために、イマジネー
ションを活性化させることは必須だか
らである。
(八王子・山田小 小林 照子)

○調査期間 1986年～2002年
○調査協力校
1年生 (53名)
東京
聖徳学園小 1987年 26名
2年生 (19名)
東京
聖徳学園小 1986年 24名
1998年 27名
玉川学園小 1998年 27名
1998年 19名
八王子六小 2000年 30名
1986年 29名
八王子山田小 2000年 29名
2002年 27名
3年生 (156名)
東京
聖徳学園小 1986年 32名
1998年 39名
日野南平小 1998年 60名
町田第4小 1999年 25名
4年生 (53名)
東京
本村小 1986年 33名
聖徳学園小 1986年 20名
5年生 (0名)
6年生 (22名)
東京
聖徳学園小 1986年 22名

注1 岩田慶治編著「子ども文化の原
像」日本放送出版協会 1988

5

注2 注1のp.115)

藤岡喜愛他「子どものイメージ
と表現世界」日本放送出版協会
1985

注3 武村昌於「子どもの夢の世界構
造」児童の言語生態研究No.14
1990

注4 小林照子「夢と困る—子どもの
イメージ運動を停滞させる意識
—」児童の言語生態研究No.14
1990

注5 小林照子「子どもの感情生活に
おける浄化作用について—「夕
日」作文にみる子どものイメー
ジ運動—」児童の言語生態研究

注12 今江祥智「ごろんこ祭り」光村図
書小学国語六年上1981年

注6 小林照子「あの世からこの世へ
No.13 1988
—「人形」作文に見る子どものイ
マジネーション—」児童の言語
生態研究No.15 1996

注7 宮田雅智「おふくろの世界—「お
うち」—「おい」作文にみる時間
と空間」児童の言語生態研究No.
15 1996

注8 上原輝男「夢作文と個性」児童の
言語生態研究No.14 1990

注9 上原輝男「子どもと夢」児童の言
語生態研究No.15 1996

注10 注2、3、4、5、6、7と同じ

注11 内田樹「寝ながら学べる構造主
義」文春新書2002年

注12 今江祥智「ごろんこ祭り」光村図
書小学国語六年上1981年

6年生 (22名)

東京

聖徳学園小

1986年 22名

